25　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。　　　　　　　　〈九州大〉二〇二〇年度出題

　　　㆑ 、ⓐ頗　　推 　賢　㆒。天　下　①称㆑ 。楊　震、　ⓑ字　伯　起、孤　 ㆑ 、通　達　博　諸　儒　 　 「関　　孔　子　楊　伯　。」教　 二　十　余　年、不㆑ ㆓ 州　　礼　㆒、②衆　人　 　晩　㆒、而　　志　　。　鄧　騭　　而　 。　震　年　　五　十　余、 ㆓ 荊　州　刺　史、東　莱　太　㆒。

　震　 、　経㆓ 昌　㆒。　㆑ 　荊　　茂　才　王　密　 昌　　㆒、夜　懐㆓ 金　十　斤㆒ 以 ③遺㆑ 震。震　「④故　人　知　君、君　不　知　故　人、何　也。」密　「暮　夜　 　者㆒。」震　「天　、地　、我　、子　、　 　者㆒。」⑤密　　而　。

　　㆓ 　　太　㆒。　公　子　孫　　　　歩　。故　旧　　㆑ 　㆓ 産　㆒。震 ⓒ不㆑ 肯。、「㆔ 後　 称　㆓ 清　白　　子　㆒、㆑ 　遺㆑ 、不㆓ 　 。」

（『資治通鑑』による）

（注）　鄧騭＝後漢時代の宰相。

推進＝有能な人物を推薦し、官僚として登用する。

楊震＝後漢時代の学者。

関西＝函谷関から西の地方。

教授＝学校の先生をつとめる。

州郡礼命＝州や郡の役人となること。

辟＝朝廷の高官として登用する。

遷＝歴任する。

荊州刺史・東莱太守＝荊州・東莱はともに地名。刺史・太守は長官。

昌邑＝地名。

茂才＝才能をみとめられた人。

令＝村長。

涿郡＝地名。

蔬食歩行＝質素な食事をし、外出も馬車などを使わずに歩く。

故旧＝古くからの友人。

開産業＝家計を維持するための仕事や財産を持つ。

問１　傍線部①「称」、③「遺」について、この本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の（ア）～（オ）のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

①「称」（ア）　高く評価する

（イ）　人生の目標とする

（ウ）　自分でも真似をする

（エ）　物議をかもす

（オ）　鼻に掛ける

③「遺」（ア）　ねがう

（イ）　わすれる

（ウ）　つかねる

（エ）　なくす

（オ）　おくる

問２　傍線部②「衆人謂之晩暮、而震志愈篤。」について、衆人が「晩暮」と言った理由を明示して、この一文をわかりやすく解釈せよ。

問３　波線部ⓐ「頗」、ⓑ「字」、ⓒ「不肯」の読み方を、送り仮名も含めてすべてひらがなで記せ（現代仮名づかいでもよい）。

問４　傍線部④「故人知君、君不知故人、何也。」を、すべてひらがなで書き下し文に改めよ（現代仮名づかいでもよい）。

問５　傍線部⑤「密愧而出。」について、何故そのような行動をとったのか、理由をわかりやすく説明せよ。

◎問６　この文章全体から読み取れる楊震の人物像について、句読点も含めて八十字以内で説明せよ。

問７　『資治通鑑』と同じく中国の歴史書であるものを、次の（ア）～（コ）のうちからすべて選べ。

（ア）　『十八史略』　　　（イ）　『晋書』

（ウ）　『菜根譚』　　　　（エ）　『桃花源記』

（オ）　『新五代史』　　　（カ）　『懐風藻』

（キ）　『人虎伝』　　　　（ク）　『史記』

（ケ）　『唐宋八家文』　　（コ）　『荀子』

【解答と採点基準】

問１　①＝（ア）　　③＝（オ）

問２　Ａ長い間学校の先生を務め一向に役人になる様子もないので、Ｂ人々は楊震を出世に関心がないものと思っていたが、Ｃ楊震の名声への志はますます厚くなっていた。

Ａ＝４〔同意可。〕

Ｂ＝２〔「出世に関心がない」は「人生の夕暮れを迎えた」など、同意可。〕

Ｃ＝４〔同意可。ただし「名声への」に相当する語句のないものは減点１。〕

問３　ⓐ＝すこぶる　　ⓑ＝あざなは　　ⓒ＝がんぜず

問４　こじんきみをしるも、きみこじんをしらざるは、なんぞや。

「こじんきみをしるも、」は「こじんきみをしるに、」も可。

問５　Ａ楊震同様、かつて鄧騭に才能を認められたにもかかわらず、Ｂ人目につかない場で賄賂を贈るような人物に成り下がっていることを楊震に指摘され、Ｃ我に返ったから。

Ａ＝３〔同意可。〕

Ｂ＝４〔同意可。〕

Ｃ＝３〔「自ら過ちに気づいた」など、同意可。文末が「～から。」となっていないものは減点１。〕

問６　Ａ下級役人には見向きもしない一方で長官の地位に就き、Ｂまた金銭には執着しない一方で清廉な楊震の子孫との称賛こそが子孫への一番の贈り物だと考える、Ｃ名声に執着した人物。（80字）

Ａ＝３〔同意可。ただし「下級役人」と「長官」の対比に相当する内容のないものは減点２。〕

Ｂ＝３〔同意可。ただし「金銭には執着しない」と「清廉」の対比に相当する内容のないものは減点２。〕

Ｃ＝４〔同意可。〕

問７　（ア）・（イ）・（オ）・（ク）

【書き下し文】

　にり、問３ⓐるくをす。をす。、問３ⓑは、なれどもをみ、にして、之がにりてはく、「の楊伯起。」と。すること、のにへざれば、之をとふも、震の よし。鄧騭きて之をす。に震に余、ねて州、にる。

　震郡にくにたり、にを。ぐるの荊州の昌邑のとり、をにして震にる。震曰はく、「問４をるも、君故人を知らざるは、ぞや。」と。密曰はく、「知るし。」と。震曰はく、「知る、知る、知る、知る、何ぞ知る者無しと謂はん。」と。密ぢてづ。

　に郡の太守にず。はにして、にす。いは為にをかしめんとす。震問３ⓒぜず。曰はく、「をして称しての子孫と為さしめ、を以て之を遺らば、たからずや。」と。

【現代語訳】

　鄧騭は（宰相の）位に就いて（いたとき）、とても多くの有能な人物を推薦し登用した。世間（の人々）はこの行動を問１①高く評価した。楊震は、字は伯起で、孤独で貧しいが学問を好み、知識が豊富で物事をよく知っており、多くの儒者が楊震を取り上げて語り、「関西の孔子（のように優れた）楊伯起である。」と言った。（楊震は）学校の先生を二十年余り務め、州や郡の役人になることに応じなかったので、人々は楊震を出世に関心がないものと思っていたが、楊震の（名声への）志はますます厚くなっていた。鄧騭は（楊震の評判を）聞きつけて楊震を朝廷の高官として登用した。この時楊震の年齢はすでに五十歳を過ぎ（ていたが）、荊州の長官や東莱の長官を歴任した。

　楊震が（任地である）郡に行くとき、道中で昌邑を通過した。もともと（鄧騭が）才能を認め推挙した人物である荊州の王密は昌邑の村長になっており、夜金十斤を懐に忍ばせて（楊震のもとを訪れ）その金を楊震に問１③贈った。楊震は言った、「（私とあなたの）昔の知り合い（＝鄧騭）はあなたのことをよく知っているのに、あなたが昔の知り合いのことを知らない（ような行動をする）のは、どうしてか。」と。王密が言うには、「日が沈んだ夜（のできごと）で（誰も）知る者はおりません。」と。楊震が言うには、「天が知っている、地が知っている、私が知っているし、あなたも知っている、どうして知る者がいないなどと言うのだろうか、いや言えまい。」と。王密は恥ずかしくなり（楊震の宿舎を）出て行った。

　その後（楊震は）涿郡の長官に転任した。その性質は清廉で、子や孫も常に質素な食事をし徒歩で移動していた。（楊震の）古くからの友人のひとりが楊家のために（家計を維持するための）仕事や財産を持たせてやりたいと思った。楊震はうなずかなかった。（楊震が）言うには、「後世（の人々）に清廉潔白な官吏（楊震）の子孫だと褒め称えさせ、この称賛を（私の）子孫への贈り物とするならば、なんと手厚いことではないか。」と。